

つながりのある市民主体のまちづくり

「平成」という一つの時代が終わり、新たな時代を迎えようとしています。この間、愛・地球博の開催、リニモの開業、市制施行など様々な出来事があり、長久手は大きく発展してきました。その一方で、豊かで便利な生活と引きかえに失ってしまった大切なものがあります。

それは「つながり」です。

近い将来、人口減少、高齢化、大災害という課題に直面します。行政の力だけではこれらには対応できません。つながりのある市民の力、地域の力が必要であり、行政主導から市民が主体的に行動する市民主体のまちづくりへと転換していく必要があります。

医療・介護の問題や、現代社会において大きな問題となっている自殺対策も含め様々な分野において、これまで以上に市民・団体・事業者・行政などが協力し、地域で支え合う仕組みをつくっていくことが必須になります。

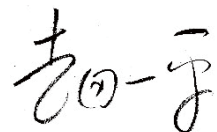
それには「つながり」が必要です。

人を育て、まちを育てるには時間がかかります。また、時間をかける必要があります。そして完成はありません。幅広い世代の市民や活動団体が、「我が事」として自分が暮らす地域に関心を持ち、つながることで、まちに必要とされていると感じられる役割と居場所がある「地域共生社会」の実現を目指します。

最後に、計画策定にあたりご尽力をくださいました策定委員の皆さまをはじめ、関係各位並びに貴重なご意見・ご提案をいただきました多くの市民の皆さまに深く感謝申し上げます。

2019年3月

長久手市長



ともに進む

長久手市は、2015年の国勢調査において「平均年齢が全国一若いまち」であり、民間の調査で住みやすい街として評価を受けるなど、魅力と活気にあふれています。

しかしその一方、人と人の絆が希薄化し社会的孤立や様々な不安、困りごとを抱える人々が増え、様々な生活課題が持ち上がってきています。市社会福祉協議会では、これまで第1次地域福祉計画・地域福祉活動計画に基づき、地区社協やCSW（コミュニティソーシャルワーカー）の配置など地域住民の皆様とともに絆の再構築や課題解決に取り組んできました。



第2次の計画策定にあたって第1次の「基本理念」や「基本目標」を継承して地域の皆様、サロン、ボランティアなど多くの皆様から多くのご意見を頂戴して、それらを社会福祉協議会内の若手を中心としたプロジェクトチームで何度も議論するなど、プロセスを大切に策定に取り組んできました。

そして、行動指針として「ともに進む」を掲げ、社会福祉協議会の職員全員が地域福祉の推進役としての意識を持ち、職員一丸となって「地域共生社会」を目指していく所存でございます。

結びに、計画策定にあたりまして、ご指導ご助言をいただきました計画策定委員会佐野治委員長はじめ策定委員の皆様、また貴重なご意見・ご提言をいただきました市民や関係団体の皆様に厚くお礼申し上げます。

2019年3月

社会福祉法人 長久手市社会福祉協議会

会長

喜多一憲